

グレート・コミッション

吉田隆・恵利子宣教師を支える会

第99号 2024年2月11日発行

発行：グレート・コミッション 吉田隆・恵利子宣教師を支える会 郵便振替：00910-3-210061 グレート・コミッション
事務局：〒606-8274 京都市左京区北白川大堂町4-3 京都キリスト福音教会内 FAX 075-791-3488

東マレーシア・パカンの町を訪ねて

吉田 隆

首都クアラルンプールが位置する西マレーシアは、イスラム教人口が多く、その影響でキリスト教会のさまざまな活動が制限されています。それに対し、東マレーシア（ボルネオ島）では、独立前から既に英国などからの宣教の大きな働きによって、現在では人口の50%以上がクリスチャンになっています。

2024年1月にマレーシアを訪ねました。今回は、東マレーシアの州都クチンでBEM教会の礼拝（日曜日）と企業の朝礼拝（月曜日）での働きの後、クチンから330kmほど北上したパカンという町での働きに行きました。



東マレーシア・パカンの町を訪ねて 吉田 隆	1-3
フィリピンを訪問して 摂理・ソリス	4
クリスマス個展を訪問して 藤巻慎一	5
グレート・コミッションを読んで 濱本義実、ピビアン	6
感謝とご報告・祈りの課題	6



クチンBEM集会



ロングハウスの集会

ドリアンの町、パカン

今回、私たちが初めて訪問したパカンという町は、果物の王様ドリアンの産地として有名です。町の入り口には、「I ♥ PAKAN」と書かれた文字の隣りに特大のドリアンの彫刻がありました。

フルーツの王様と呼ばれるドリアンですが、日本ではほとんど手に入らない果物です。ちなみにインターネットで調べたところ1個が9,000円から18,000円もする高級品のようです。

ただこの果物は大好きな人と大嫌いな人に分かれるフルーツで、その理由は非常に臭い、ガス漏れのようなトイレのような匂いなのです。口に入れるまでが大変ですが、口に入れるとねっとりしていて、味はクリームチーズケーキのようなアイスクリームのような味です。

このパカンの町のドリアンは、ほとんど匂いがありません。値段は1つ150円ほどです。その他にも、バナナ、椰子の実、マンゴスチン、ジャックフルーツなどが家の庭やジャングルの中に野生に生えています。

イバン族の生活

この辺りに住むイバン族の人々は、ボルネオ島マレーシアのサラワク州で最大の民族です。国境を越えたインドネシアのカリマンタン西部にも数万人が住んでいます。

イバン族は、元々首狩り族として知られていました。首狩り戦が盛んに行われていたそうですが、1920年代に政府によって平定され首狩りは終焉したとのこと。ただ、今でもその文化を伝える衣装や踊りが行われています。

もう1つの特徴は、ロングハウスと呼ばれる長い家があり、それぞれの世帯には一家族5、6人が住んで

おり、平均15家族が長い家に暮らしています。今も新しいロングハウスが建築されている現場を見ましたが、建築の素材は新しくなっていますが、基本的な設計は同じです。

入り口を入ったところは、広くて長い廊下のようになっており、ここで集会が行われます。1月22日と23日の夜、異なるロングハウスで集会がもたれました。現在は感謝なことに、ほとんどの住人に福音が伝わり、信仰を持つ人が増えてきたので、7、80人の人たちが集まりました。

新しい会堂の建設の祝福

今度建設される新しい教会堂の予定地に行き、そこでこの土地の祝福と工事が悪しき霊の妨害から守られるように、祈りが捧げられました。パカンの町の人口は8,000人ほどだそうです。新会堂は1,000人が集まれる設計にする予定とのこと。ちなみに現在のメンバーは500人。他のキリスト教会はカトリック教会があるだけだそうです。

現在の福音教会の会堂は小さすぎるので、今年のクリスマス集会は公民館で行われたとのこと。1年以内の新会堂建設を目指しています。

悪霊との戦い

このようにして神の国が前進し、イバンの人々の間でクリスチャンの人口が増加している背後には、悪霊との激しい戦いがあります。

今回イバン族へのミニストリーの最終日の働きは、最近イエス様を信じた夫妻の家を訪問することでした。この夫妻の家系は、代々霊媒師の家系であったそうで、子どもができない、病気になるなど、さまざまな問題が繰り返して起きてきたそうです。そして、最近イエス



イエス様を信じた夫妻のために祈る



偶像を焼く



新会堂のために祈る

様を信じることができました。その完全な解放を祈るために、私たちは遣わされたのですが、私たちも霊的な攻撃により大きなトラブルに巻き込まれたのです。

まず、クチンでの朝の集会を終えて、いざピカンに行こうとして荷物が置いてある宿に帰ろうとした時に、日本にも何度も訪問してくださっており、今回も私たちのマレーシア訪問の準備をしてくださっていたスタンレー・ジェラード牧師が、車から降りようとした時に、車中で動けなくなってしまったのです。胸を押さえて苦しそうにし、鼻や口から液体が流れ出しました。その場で救急車を呼びました。

クチンは大きな都市であるはずなのに、なかなか救急車が来ません。ようやく到着して、スタンレー師はストレッチャーに乗せられて救急病院へ運ばれることになりました。クチンでのお世話をしてくださったデニス牧師と私たちは救急車には乗れないので、別の車で病院に向かいました。「大変なことになった、スタンレー師はピカンには行けない。病院に着いたらクアラルンプールの奥様に連絡する」

ところが病院にスタンレー師は来ていなかったのです。後から分かったことには、糖度が低下した為に起こった状態で、救急車の中での処置で力を取り戻すことができたのだそうです。

スタンレー師は、お腹の具合も悪くしていたこともあり、少し休息を取ってからの出発となりました。

第2番目の霊的な攻撃は、ピカンに到着してから起こりました。私たちは、トヨタのハイエースによく似た中国製の自動車で移動していました。ところが、次第に速度が出なくなり、前に進まなくなりました。エンジンの部分を開けてみて分かったことは、ベルトが切れかかっていたということでした。前日このピカンに来るまでは高速道路で早いスピードで走っ

ていたので、その時にベルトが切れていたら恐ろしいことになっていましたが、守られたことを感謝します。

しかし代わりにベルトに交換することは簡単なことではなく、車両運搬車で別の町に運ばれました。幸い、この町の伝道者の車をお借りすることができ、働きを続けることができました。この頃、日本の各地に雪が降ったと聞きましたが、マレーシアは30度超えの暑さでした。

コブラの霊からの解放

こうして目に見える形の霊的な攻撃がある中で、訪問が行われました。スタンレー牧師、デニス牧師と私たちに加えて、地元の牧師たち5人が同行しました。この家に行くためには、車を置いたところから30分ほどの山道を歩かなければなりません。橋のない川を越え、山道を登ったり下りたりしました。

家に到着して、賛美を歌い地元の牧師がイバン語で説教しました。アダムとイブ、ヨブとサタン、ルシファーなどが旧約聖書から語られた後、新約聖書でイエス様が勝利を取られたことが話されました。

悪霊を追い出す祈りの時を持ち、賛美の時を持ちました。その後、そのお宅の前で偶像を燃やしました。この家族は特にコブラの霊に支配されてきたそうです。この家の周りのジャングルには本物のコブラもいるのです。

この夫妻をイエス様に導いた伝道者夫妻は、この偶像を焼いた夫婦を自分のところにしばらく住まわせて、指導をするそうです。こうして、ピカンの山奥にもイエス様の解放がもたらされたことを感謝します。





私が現在仕えているスイスの教会のカレン・セーダーグレン牧師（以下パストーラ）は、アメリカ人の女性宣教師なのですが、約30年前、神様の導きによってスイスに来られる前、ご両親と一緒にフィリピンに聖書学校を創設し、教職者育成に励んでおられました。その聖書学校レーマ・クリスチャン・トレーニングセンター（以下レーマ）は昨年、40周年を迎えました。そこで10月末、パストーラと、同聖書学校の理事会役員である夫の両親と共に、40周年記念集会で奉仕をするために、フィリピンを訪問しました。

レーマはタルラックという、マニラとバギオのちょうど中間にあります。10月末のスイスの気温は10度前後でしたが、一転してフィリピンは気温が35度前後、湿度も75%以上で、とても蒸し暑かったです。まだ幼い息子と娘の体調管理に気を付けながら、奉仕をさせていただきました。

さて、iPhone等で有名なApple社のスティーブ・ジョブズ氏が、自ら創設した会社を一度解雇された後に、再び返り咲いたという話は有名です。世の中には悪意を持った人が、組織のトップを引きずり落として、権力を手に入れるという事件が起こります。とこ

ろが、クリスチャンの働きについているパストーラの身にも、同じようなことが起こりかけたのです。

長い話を要約すると、約10年前、聖書学校の前学長が尊い献金を少しずつ着服し、創立者の意思に反した学校運営をしていることが発覚しました。そしてあるところか、その前学長とその仲間たちの手によって、パストーラは学校総裁の座を退かされそうになったのです。幸い神様の介入により、すんでのところ事なきを得、前学長は当然解雇となりました。その後、信頼できる良い学長が立てられ、前学長の在籍期間に荒れ果ててしまった学校は、校舎の補修改装や、寮の増築などによって改良されていきました。献金が正しく使われることによって、わずか数年で、見違えるほどに改善され、卒業生たちは驚きました。

私は、40周年記念集会の飾り付けや、記念品の準備と贈呈、賛美リードなどの奉仕のために聖書学校を訪問させていただきました。40年という歴史のみならず、この聖書学校を暗闇から光へと導いてくださった、神様の勝利をほめたたえる集会で、賛美リードをさせていただけたことは、とても意義深い素晴らしい経験となりました。



チャリティーの説明をする摂理（右端）



40周年記念写真 摂理・ソリス家族4人は向かって左最前列

京都から妻の藍子と一緒に JR 湖西線に乗って比叡山坂本駅で降りた。今日から、敬愛する吉田隆牧師の奥様である、吉田恵利子師のクリスマス個展がギャラリー楽心庵で始まるのだ。

雨が降り出しそうな曇り空の下 “いざ、出発!!” 動き初めには気合を入れないと動けない年齢になってしまったこの頃だ。今回の日本旅行も結婚 50 年という節目の旅行、しかもフランスに来て 50 数年という歳月が流れた。いろんなことがあったが、あることをきっかけにイエス・キリストに巡り合うことができ、信仰へと導かれた。信仰を持ってからは、大変な時期も平安であり、大病も癒され、大怪我も大した怪我でなく、健康のうちに今を生かされていると痛感している。そして生かされているうちに、主の用事を命じられるままに成し遂げていきたい、と思っている自分がある。そんな不思議な感覚のうちに道を歩み始めた。

あそこにもここにも小さな祠が祀られていて寺や神社もたくさんある、いや多すぎる。ここには信仰の篤い人々がたくさん住んでいるのだろうか、これが美しい街というのだろうか。その道にあった小さな店で初めて見る野菜たちとの出会いがあった。蕪のように太い大根、ゴボウのように細い紫がかかった大根、でかい葉っぱの野菜たち。この美味しそうな野菜は遥か昔に異国の人が日本にもたらした野菜なのだろうか、この野菜との出会いを通してさえ、主はどんな時にも導きがありそこに出会いがあり、喜びがあり嬉しさを感じることを

教えてくださっている。

小雨の中を紆余曲折しながらも、やっと目的地のギャラリー楽心庵に着いた。暖かい感じがして、人が住んでいるかのような民家風ギャラリーだ。フランスをこの夏に訪問してくださった吉田先生ご夫妻とは、5 か月ぶりの再会だ。ギャラリーの中は、すでにクリスマス一色に飾り付けられ、その飾りつけの一つ一つに恵利子師の優しい感性を発見でき、とても嬉しい気持ちになった。

この個展の為にアジア、欧州を宣教しつつモチーフを集め、この「クリスマス」という日本人には聞きなれた言葉を個展のテーマに掲げ、少しでも多くの日本人に本当のクリスマスの意味を知らせ、かつ福音を伝えるという、先生方の福音宣教の働きを少しでも支えたいと思い、祈らせていただいていた。坂本の街、木々はすっかり秋の色に染まり、人々に楽しさや和らぎを与えているが、この美しい街がいつか主の平安で満たされるように祈ります。



吉田恵利子絵画個展

～風のしらべⅪ～

3月5日(火)～10日(日)



12:00～19:00 (最終日は 17:00 まで)

ギャラリー

ヒルゲート 2F

〒604-8081

京都市中京区寺町三条上ル天性寺前町535

TEL 075-231-3702(1F)

URL <http://www.hillgate.jp>

グレイト・コミッションを読んで

吉田隆先生と恵利子先生は、サマリアの女を導いたイエス様のように、自然体で賜物を使いながら常に伝道に従事しています。海外での宣教や執筆、日本での伝道、カフェやショッピングモールでの活動、そして地域の会堂巡りは、ガリラヤ地方のシナゴグを巡られたイエス様を思い起こさせます。

先代の牧師である父、聖一の時から、一年に一度、吉田隆先生ご夫妻が車で立ち寄り、ペンテコステの時期が多いので、賛美歌“Spirit Song”と“Come Holy Spirit come”を歌い、洗練されたスライドを用いて深

い信仰と愛のメッセージを語り、礼拝後には信徒の病の癒しを祈ってくださいます。昼食の交わりでは、出てきた食事を美味しく食べてくださ

り、さまざまな教えを授かり感謝の思いでいっぱいです。

感謝の気持ちを込めて、これからも先生の導きに感化されながら宣教に励みたいと思います。



京阪グレイスチャペル

牧師 濱本義実、ビビアン

感謝とご報告

- 吉田隆宣教師は、2023年11月6日から10日までタイのチェンライを訪問し、PAM(ペンテコステ・アジア宣教会議)に日本を代表して参加いたしました。
- 吉田恵利子宣教師の第4回クリスマス絵画個展が11月25日から12月10日まで、大津市坂本のギャラリー楽心庵とCafé IORIを会場として行われました。期間中4回のクリスマス・コンサートと2日間の「サンタと写真を撮ろう！」が催されました。
- 吉田隆 & 恵利子宣教師は、12月20日に大津市新免のフィンランド学校で行われたクリスマス・セレブレーションに主催者として出席し、飾り付けやメッセージを担当しました。
- 吉田隆 & 恵利子宣教師は、2024年1月18日から29日まで、東マレーシア・ボルネオ島のサラワクと西マレーシアの首都クアラルンプールに於いて奉仕をさせていただきました。報告は本号P1～3をご覧ください。
- グレイトコミッションニュースレターの前々号で、バングラデシュに教会堂を6つ建設するための献金をお願いしました。その結果、280万円以上が捧げられ、第一の会堂のための献金がバングラデシュに送られました。第二会堂のための献金もほぼ満たされつつあります。プロジェクトが動き始めています。みなさまのお祈りとご献

金を感謝します。引き続き、第三会堂のための献金が捧げられるようにお祈りください。

- 吉田隆 & 恵利子宣教師の宣教30周年記念と結婚40周年を兼ねてイスラエル聖地旅行の計画で80万円の予算を立てています。2024年1月21日時点で462,000円が与えられたことを感謝します。イスラエルは現在戦争状態にありますが、政情と財政が整えられますように。このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「聖地旅行のため」とお書き添えください。

祈りの課題 (以下の祈禱課題を覚えてお祈りいただければ幸いです。)

- 吉田恵利子宣教師の個展「風のしらべXI」が、2024年3月5日から10日まで、京都市中心部のギャラリー・ヒルゲートで開催されます。
- 吉田ファミリーの2024年の国内、海外の働きが主によって導かれますように。
- 吉田成就兄は、2月13日から23日までKBIからのアウトリーチとして3年生の生徒たちと一緒に香港への宣教旅行に出かけます。またKBI(関西聖書学院)卒業後の働きが主によって導かれますように。
- 吉田ファミリーが霊的な戦いから守られ、病気や事故や怪我から守られますように。それぞれの健康が支えられますように。

